

平成27年度部長マニフェスト取組結果

部(局)名	福祉保健部
部(局)長名	平野 孝子

【達成度について】

A：達成（設定した目標を達成することができた。）

B：一部達成（設定した目標の一部のみ達成することができた。）

C：未達成（目標達成に向け取り組んだものの、目標達成にはいたらなかった。）

重点課題 4	認知症高齢者支援の推進
--------	-------------

全体の達成度

B

一部達成

目指すべき方向	高齢者が認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための地域づくりを進めます。
---------	---

活動目標	具体的な取組実績
認知症サポーターの養成は3,600人を目標に取組み、認知症サポーターフォローアップ研修を開催し、地域で主体的な活動を希望する認知症サポーターには市民公益活動センター（ラコルタ）と協働してその活動を支援します。	認知症サポーター養成研修は75回開催し2,996人養成し、13,929人になりました。認知症サポーターフォローアップ研修を1回、地域別サポーター交流会を13回開催し、地域での主体的な活動を希望された認知症サポーターには市民公益活動センター（ラコルタ）と協働して、サポーター養成講座の開催や認知症に関する研修会等の活動を支援しました。
地域住民が主体となり徘徊高齢者捜索模擬訓練や訓練後の報告会・意見交換会を、2地域で実行できるよう支援します。また、地域事業者に対し、高齢者支援事業者との連携による見守り事業及び徘徊高齢者SOSネットワーク事業の協力事業者への登録を勧奨します。	認知症地域サポート事業を2地域で実施しました。西山田地区にて平成27年11月8日に実施した模擬訓練の参加者は108人、岸部地区にて平成27年11月21日に実施した模擬訓練の参加者は107人でした。模擬訓練後には、それぞれの地域で報告会・意見交換会を行い、地域での見守り体制づくりに向けて活動を続けています。地域事業者へも働きかけ、見守り事業登録数は470か所、SOSネットワーク事業登録数は440か所と増加しています。
徘徊行動により行方不明になったときの迅速な安全確保のため、協力事業者数を380か所以上、事前登録者数を80人以上を目標に増やし、ケアマネジャー等介護保険事業者へ迅速な安全確保の重要性について啓発します。	認知症地域サポート実施地域での取組を強化し、サポート登録事業者数は440か所、事前登録者数は116人となりました。徘徊行動により行方不明になった方が事前登録をしていない場合も、ケアマネジャー等が家族を支援し、登録と同時に捜索を行う等、高齢者の迅速な安全確保に努めています。
認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症の初期から、いつ、どこで、どのような医療や介護サービスを受けることができるかを示した認知症ケアパスを作成し、市報に折り込み全戸配布し、市民や関係機関にも普及啓発します。	認知症のチェックリストや相談窓口を示し保存版として認知症ケアパスを作成し、市報すいた3月号に挟み込み全世帯に配布しました。吹田市医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護保険事業者連絡会に普及について協力を依頼しました。
認知症の人への効果的な支援を行う認知症地域支援推進員の業務内容や適切な担い手の検討を行うとともに、認知症初期集中支援チームの活動内容や構成員を明確にし、実施要領と選定会議設置要領の作成に取り組みます。	認知症地域支援推進員と認知症初期集中支援チームの設置を平成29年4月予定とし、平成28年度の委託事業者選定会議の設置に向けて、実施要領や選定会議設置要領の作成に取組みました。認知症初期集中支援チーム設置検討委員会を3回実施し、活動内容や構成員等について意見交換を行い、業務の具体化を図りました。

平成27年度部長マニフェスト取組結果



達成目標	達成状況	達成度
認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る認知症サポーター養成に取り組み、認知症サポーターの地域での主体的な活動を支援します。	→ 認知症サポーターは、13,929人養成し、平成27年度目標14,300人の97.4%を達成しました。養成講座の実施等、認知症サポーターの地域での主体的な活動が広がりつつあります。	B 一部達成
認知症地域サポート事業を実施する地域住民や、協力事業者等による、認知症の人やその家族を見守る地域におけるネットワーク構築を目指します。	→ 認知症地域サポート事業をきっかけに、地域の見守り体制について関心が高まり、地域の特性に応じたネットワークづくりを進めています。	A 達成
認知症高齢者等が徘徊行動により行方不明になった場合、迅速な安全確保を図ります。	→ 平成27年度の捜索依頼は6件で、いずれも、地域住民等により無事に保護されています。保護された経緯については認知症サポーターフォローアップ研修等で報告し、地域での見守りの重要性についての啓発につながっています。	A 達成
認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられることを市民に広く啓発します。	→ 認知症ケアパスを作成し全戸配布することで、認知症に関する相談機関やサービス等について市民に広く啓発することができました。	A 達成
認知症地域支援推進員や認知症初期集中支援チームの設置について基盤整備を進めます。	→ 認知症地域支援推進員と認知症初期集中支援チームの設置に向け、受託事業者選定会議開催の準備を進めています。	A 達成

総合評価・総括

認知症ケアパス保存版を全世帯に配布することで、認知症に関して、気軽に地域包括支援センターに相談していただけるよう周知を図りました。認知症サポーター養成研修、認知症地域サポート事業を通じ、高齢者が認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるための地域づくりが広がっています。

今後は、これまでの取組を継続するとともに、さらに認知症支援のネットワークを強化するために、認知症地域支援推進員の配置や早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する認知症初期集中支援チームの設置に向け準備を進めてまいります。